

地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価

(事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について)

令和3年1月14日

協議会名:	田原市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域公共交通確保維持事業／地域内フィーダー系統
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	[将来像]だれもが安心して移動できるまち [取組姿勢]協働で“つくり・守り・育てる”公共交通網 [全体目標]まちづくりの基盤となる公共交通の確立 【実現目標】 ○多様な移動ニーズに対応する公共交通の実現 ⇒移動の安全性の向上、移動手段の選択肢拡大を目指す。 ○まちづくりを促進し、まちの魅力を高める公共交通の実現 ⇒定住・交流人口の拡大、都市形成の推進・都市機能の維持向上、環境共生・福祉など地域課題の解消、観光・商業など地域活力の向上を目指す。 ○市民の幸福に貢献する公共交通の実現 ⇒潤い豊かな暮らし方の実現を目指す。 【公共交通網】 ○「幹線乗合交通」を基軸とし、その範囲外を「コミュニティ乗合交通」「有償パーソナル交通」「政策交通」が順次補完(役割分担・連携)し、更にこれらを企業送迎・助け合い活動が補うことで市民等の移動を確保する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年1月14日

協議会名： 田原市地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域公共交通確保維持事業／地域内フィーダー系統

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名・運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
豊鉄ミディ(株)	ぐるりんバス市街地線 (田原駅～田原駅)	・路線カルテの作成にて地域と情報共有した。 ・平成30年10月に市街地西線・東線の2路線を市街地線1路線に統合した。	A ・計画どおり適切に実施した。	B 【※評価基準は、目標値を超えていればA評価、目標値の50%以上がB評価、目標値の50%未満でC評価とする】 ・1便当たり利用者数 3.3人で目標値を達成できなかった。 (目標5.0人、昨年度4.5人) ・1便当たりの利用者数については、10月から2月が3.9人、3月から9月が2.9人となっている。 ・3月から5月の利用者の昨年度比は、40%減から50%減で、新型コロナウイルスの影響により減少が大きい。 ・新型コロナウイルスの影響により、令和2年2月から5月にかけて臨海企業従業員及び高齢者の利用者数が減少したが、通院目的の利用者は引き続き利用している。	・新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで、商業施設と連携した利用促進策等を試験的に実施し、全市的な取り組みへと広げていくことで、官民一体となった「守り育てる」公共交通利用促進事業を検討し取り組んでいく。 ・路線カルテを用いて路線ごとの利用実態を検証し、地域と利用促進策を検討し実施する。 ・運行事業者や地域とも連携し、小学生や高齢者にターゲットをのぼった乗り方教室を開催するなど、これまで、ぐるりんバスを利用していなかった層の掘り起こしを行い、利用者増に取り組む。 ・バス停ごとに利用者の分析を行い、利用実態に合わせて、随時ダイヤ・ルート等の軽微な変更を実施する。 ・目標：1便当りの利用者数 市街地線・童浦線・サンテバルク線：5人 表浜線：3人
	ぐるりんバス童浦線 (片西南～渥美病院)	・路線カルテの作成にて地域と情報共有した。 ・令和元年10月より白谷海浜公園等(白谷地域)のバス停を新設のサンテバルク線へ付替えを実施した。		A ・1便当たり利用者数 6.3人で目標値を達成した。 (目標5.0人、昨年度7.7人) ・1便当たりの利用者数については、10月から2月が7.4人、3月から9月が5.6人となっており、新型コロナウイルスの影響を受ける前の利用者は、昨年度比で4.7%増であった。 ・新型コロナウイルスの影響により、令和2年2月から5月にかけて臨海企業従業員及び高齢者の利用者数が減少したが、通院や買い物目的の利用者は引き続き利用している。	
	ぐるりんバスサンテバルク線 (芦集会所～渥美病院)	・路線カルテの作成にて地域と情報共有した。 ・令和元年10月より田原駅からサンテバルク(野田地域)や白谷海浜公園までの直通便となるサンテバルク線へ路線変更を実施した。		B ・1便当たり利用者数 3.8人で目標値を達成できなかった。 (目標5.0人、昨年度3.1人) ・1便当たりの利用者数については、10月から2月が4.6人、3月から9月が3.2人となっており、新型コロナウイルスの影響を受ける前の利用者は、昨年度比で67.7%増であった。 ・路線を変更し、利用者数は増加したが、新型コロナウイルスの影響により、令和2年3月から5月に小学生及び中学生の利用者数が減少した。 ・通院目的の利用者は引き続き利用している。	
渥美交通(株)	ぐるりんミニバス表浜線 (図書館～図書館)	・路線カルテの作成にて地域と情報共有した。 ・令和元年10月より高松線の一部を統合したルート変更・ダイヤ変更を実施した。		B ・1便当たり利用者数 2.9人で目標を達成できなかった。 (目標3.0人、昨年度2.8人) ・1便当たりの利用者数については、10月から2月が3.4人、3月から9月が2.5人となっており、新型コロナウイルスの影響を受ける前の利用者は、昨年度比で32.4%増であった。 ・ルート変更等により利用者数が増加したが、新型コロナウイルスの影響後は、令和2年4月から5月に高齢者の外出目的での利用者数が減少した。 ・通院や買い物目的の利用者は引き続き利用している。	

中部様式

令和 2 年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

田原市地域公共交通会議

平成 1 9 年 3 月 2 3 日設置

フィーダー系統 令和元年 5 月 3 0 日 確保維持改善計画策定等

直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
【地域内フィーダー系統】 ・ 運転免許証自主返納事業、高校生通学バス定期券購入助成等による利用促進、東三河地区が連携した小学生50円バスの実施について評価します。 ・ 引き続き路線カルテを用いた分析及び地域と協同した利用促進を図ることを期待します。 ・ ミニティバスの評価については、企業従業員等の利用状況に左右される要素が大きいことから、単年度評価だけでなく、複数年のトレンドを追った評価を取り入れることも検討願います。 ・ これらを含め、日ごろの考察・分析を行い、要員を踏まえて次の施策へ反映することを期待します。	・ 運転免許証自主返納事業、高校生通学バス定期券購入助成を実施した。また、新型コロナウイルスの影響により小学生50円バス事業が中止となったため、東三河地区の公共交通を利用したリアル謎解きゲームを実施した。 ・ 路線カルテを用いて地域と情報共有し、新たに表浜線利用推進協議会を開催した。	・ 運転免許証自主返納事業、高校生通学バス定期券購入助成を引き続き実施する。また、東三河地区で連携した利用促進策に取り組む。 ・ 路線カルテを用いて地域と利用促進策を検討し実施する。 ・ 新型コロナウイルス感染症対策を行い、商業施設と連携した利用促進策等に取り組む。

(1) 地域の特性

- ・ 渥美半島に位置する田原市は、市町村合併により田原・赤羽根・福江の市街地と点在する集落地域によって構成されている。
- ・ 本市は地理的・産業的条件から、マイカー依存度が極めて高い。

(2) 第2次田原市地域公共交通戦略計画（地域公共交通計画）

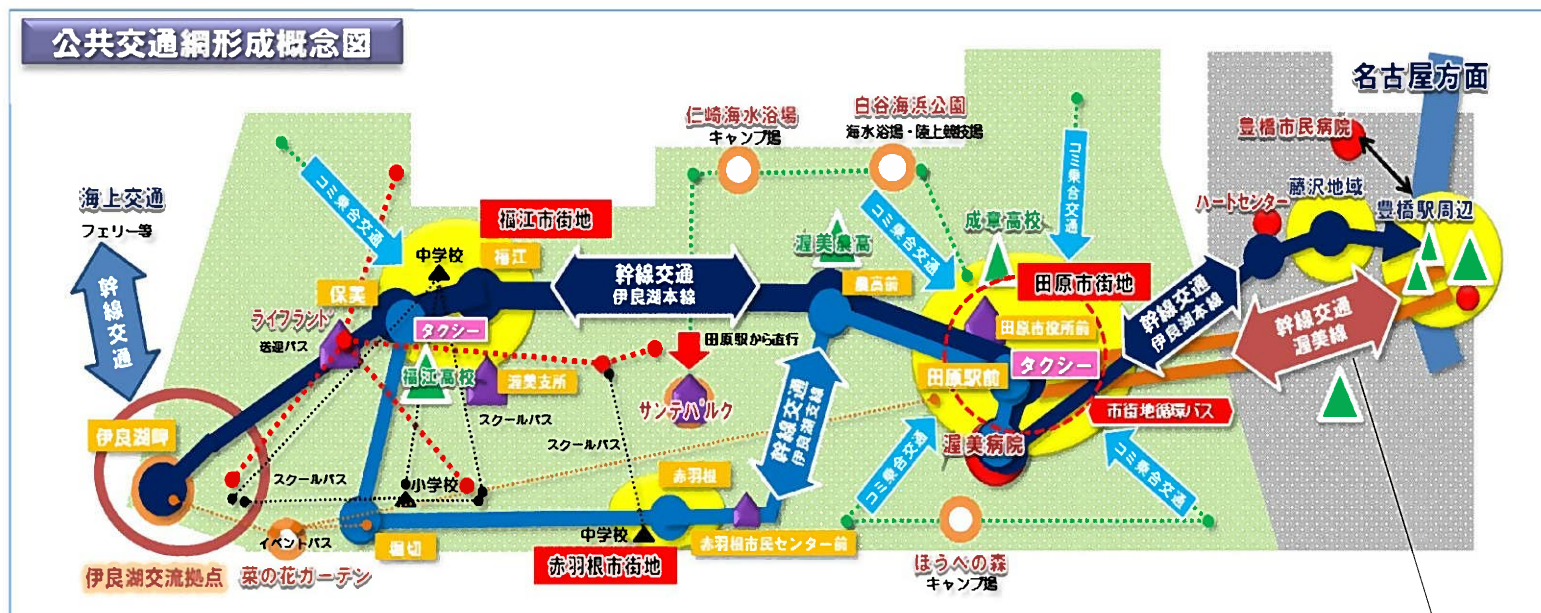
将来像：だれもが安心して移動できるまち

取組姿勢：協働で“つくり・守り・育てる”公共交通網

全体目標：まちづくりの基盤となる公共交通の確立

計画期間：平成26年度から令和4年度（平成34年度）まで

定量的目標：市内における公共交通利用者数の維持（165万人）



※補助対象路線

- ・ 地域間幹線系統補助：幹線交通（豊鉄バス：伊良湖本線・支線）
- ・ フィーダー系統補助：コミ乗合交通（田原市ぐるりんバス）

(1) 田原市ぐるりんバスの運行内容変更(令和元年10月変更)

- ・平成27年の再編により利用者が少なくなった路線の変更及び廃止(一部統合)

路線名	変更内容
野田線⇒サンテパーク線	・田原駅からサンテパーク(野田地域)や白谷海浜公園までの直通便となるサンテパーク線へ路線変更を実施した。
表浜線	・高松線の一部を統合したルート変更・ダイヤ変更を実施した。
高松線	・高松線を廃止し、一部を表浜線に統合した。
八王子線	・八王子線を廃止し、地域主体でタクシーを利用した代替手段への変更を実施した。

(2) 路線カルテの作成及び地域との協議

○路線カルテ作成(平成29年4月から)

- ・カルテ目的: 路線情報の共有、目標管理、地域による利用促進実施
- ・カルテ内容: 利用人数、運行経費、収支率、目標、利用促進の取組等
- ・6月に各地域を回り、カルテの説明と利用促進事業の実施を依頼

[地区別路線カルテ]

○野田校区公共交通利用推進協議会(平成27年4月から)

- ・令和2年2月に協議会を開催し、野田線からサンテパーク線への路線変更後の実績や利用者の状況について意見交換を実施
- ・サンテパーク線への変更の周知を図るため、対象地区へチラシの全戸配布を実施

○表浜線利用推進協議会(令和2年6月から)

- ・新たに表浜線利用推進協議会を開催し、路線変更後の実績や各地域の利用促進策等について意見交換を実施
- ・表浜線の利用促進のため、対象地区へチラシの回覧を実施



[サンテパーク線チラシ]



[表浜線回覧]

(3) 運転免許証自主返納支援事業の実施（平成29年4月から）

- ・コミュニティバスの1年間無料乗車券の交付
- ・元気パス引換券の交付（豊鉄バス:1乗車100円）
- ・たまぽカード1,000ポイントを交付



[コミュニティバス無料乗車券]



[元気パス]

(4) 高校生バス通学用定期券購入助成の実施（令和元年9月から）

- ・目的：公共交通の維持活性化及び保護者の負担軽減を図る
- ・対象者：豊鉄バスを利用して通学する市内在住の高校生
- ・助成率：豊鉄バスの通学定期購入費に対して3割を助成
- ・対象区間：最寄りのバス停から、通学校の最寄りのバス停の区間（田原市内が対象区間）



[三河田原駅での通学の様子]

(5) 東三河地区で連携した取組（東三河地域公共交通活性化協議会での取組）

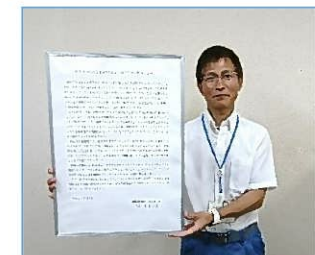
- ・新型コロナウイルスの影響を受ける複数の自治体を跨いで運行する交通事業者に対して支援を実施（1事業者当り上限200万円）
※市内のみを運行する事業者に対しては、市から同様の支援を実施
- ・東三河地区の公共交通を利用した「リアル謎解きゲーム」を実施
- ・豊鉄バスが導入するバスロケーションシステムの導入補助を実施



[リアル謎解きゲーム]

(6) 「田原市の公共交通崩壊を食い止めるための緊急アピール」を宣言（令和2年7月8日）

- ・田原市地域公共交通会議として、市内の公共交通利用者が激減している中で、公共交通を安心して利用してもらうため、各公共交通機関の感染防止対策等の取組の周知や、利用促進に向けた必要な取組を行うことや公共交通の積極的な利用の呼びかけについて、緊急アピールを宣言した。



[緊急アピール]

(1) 自己評価を行った会議

- ・令和3年1月14日(木) 田原市地域公共交通会議

(2) 目標に対する評価(第2次田原市地域公共交通戦略計画)

目標	目標値 (H28・H29集計値)	実績値(※) (H31.4.1～R2.3.31)	目標達成状況
市内公共交通利用者数の維持	165.0万人	160.2万人	未達成
内訳	目標値(人)	令和元年度実績(人)	
鉄道(渥美線・市内4駅)	733,000	732,365	未達成
路線バス(伊良湖本線・支線)	329,000	316,186	未達成
フェリー・高速船	387,000	362,871	未達成
コミュニティバス	97,000	95,930	未達成
タクシー	104,000	95,602	未達成
計	1,650,000	1,602,954	

※対象期間は、第2次田原市地域公共交通戦略計画の目標に合わせて4月から翌年3月末までとしている。

◆目標達成状況についての考察

- ・対象期間では、新型コロナウイルスの影響により、2・3月の利用者数が減少し、全ての交通機関で利用者が減少した。その後も利用者数は減少しており、通学や通院は、回復傾向にあったが、外出が減ったことで、観光客を含め利用者数は減少したままとなっている。

◆今後の方針

- ・新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行い、市民、地域、事業者、行政等が協力しながら、田原市地域公共交通会議を中心に現状の公共交通ネットワーク機能の維持活性化のため、各交通機関ごとに利用促進に取り組む。

(3) コミュニティバスに関する評価 (生活交通確保維持改善計画目標評価)

区分		目標 (H31. 10～R2. 9)	目標達成 状況	実績値 (※) (H31. 10～R2. 9)	利用者数	便数	期間別状況 10月～2月	期間別状況 3月～9月
ぐるりん バス	市街地線	1便当たり利用者数 を5.0人以上にする。	未達成	3.3人／便(前年4.5人)	15,710	4,758	未達成(3.9人)	未達成(2.9人)
	童浦線		達成	6.3人／便(前年7.7人)	30,843	4,863	達成(7.4人)	達成(5.6人)
	サテパル線		未達成	3.8人／便(前年3.1人)	21,032	5,542	未達成(4.6人)	未達成(3.2人)
ぐるりん ミニバス	表浜線	1便当たり利用者数 を3.0人以上にする。	未達成	2.9人／便(前年2.8人)	10,493	3,660	達成(3.4人)	未達成(2.5人)
	中山線		未達成	2.6人／便(前年2.8人)	6,680	2,562	未達成(2.7人)	未達成(2.5人)

※対象期間は、生活交通確保維持改善計画の期間に合わせて10月から翌年9月末までとしている。

◆目標達成状況についての考察

- ・路線全体：路線変更後の10月から2月までは利用者数は堅調であったが、新型コロナウイルスの影響により、3月から9月の利用者数は大幅に減少した。
- ・市街地線 童浦線：臨海企業従業員及び高齢者の利用者数が減少したが、通院目的の利用者数については、3月以降は一定数を保っている。
- ・サテパル線：野田線から路線変更し、中心市街地や通院での利用者と中学生の利用者数は増加したが、新型コロナウイルスの影響を受けてからは、利用者数が減少した。
- ・表浜線：高松線を統合し、利用者数は増加したが、新型コロナウイルスの影響により、利用者は減少したものの、通院や買い物目的での利用者数は減少していない。
- ・中山線：新型コロナウイルスの影響により、利用者数は減少したが、回復傾向にある。

◆今後の方針

- ・新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行い、商業施設と連携した利用促進策等を試験的に実施し、官民一体となった公共交通利用促進事業を検討し実施する。
また、路線カルテを用いて、地域と協力しながら利用促進に取り組む。

(1) 課題

- ・市内公共交通利用者実績について、全ての交通機関で目標を達成できていない。
- ・ぐるりんバス5路線のうち4路線が目標を達成できていないが、路線変更後の10月から2月までは利用者が増加しており、通院や買い物目的での利用者は堅調であるため、これまでバスを利用してこなかった層へターゲットを絞って利用促進を行う必要がある。

(2) 今後の対応方針

【第2次田原市地域公共交通戦略計画の目標に対して】

- ・新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行い、市民、地域、事業者、行政等が協力しながら、田原市地域公共交通会議を中心に現状の公共交通ネットワーク機能の維持活性化のため、各モードごとに利用促進に取り組む。
- ・運転免許証自主返納事業、高校生通学バス定期券購入助成を引き続き実施する。
- ・東三河地区で連携した利用促進策に取り組む。

【田原市ぐるりんバス（生活交通確保維持改善計画）の目標に対して】

- ・路線カルテを用いて地域と協働しながら利用促進策を検討し実施する。
- ・ぐるりんバス「海号」「花号」のペーパークラフトを作成し、子供からお年寄りまで、幅広い年代にPRを行い、バス利用への動機付けを行う。
- ・商業施設と連携し、官民一体となった利用促進策に取り組み、これまでバスを利用してこなかった層の掘り起こしを行い、利用者の増加へつなげる。
- ・各路線のバス停ごとに利用者の分析を行い、利用実態に合わせて、随時ダイヤ・ルート等の軽微な変更を実施する。